

嵯峨野の膳女史

倉 橋 惣 三

一

前大阪江戸堀幼稚園長膳直規子女史は、年來の宿痾のため、職を辭して専ら靜養したいといふ希望をもつて居られたが、老女史の健康のためには周圍も強むてお引止めすることが出来なくなり、先般全々退職せらるゝに至つた。我國保育界のために、頗る寂寞の感にたえないものがある。

二

女史に就ては、更めて紹介の要もないことであるが、青木藩西山明教氏の女として元治元年江戸三田古川の邸に生れ、明治七年以來、同家と共に大阪に居住し、明治十九年膳龜三郎氏に嫁された。

幼名たけ子、後に眞規子と改められたのである。

之れより前、明治十四年十月大阪府立模範幼稚園保母見習生を拜命。之れが、膳女史の幼兒保育界に入る第一歩であつて、爾來四十五年の久しき、一つに幼稚園教育者として、一貫せられたのである。殊に、終始大阪市に勤続せられたことは、そのこと自身が既に非凡の生涯といふべきではないか。更に、遠く當時のことを思へば、全く我國幼稚園の初期に屬し、東京に一箇、大阪に二箇、鹿兒島に一箇といつた時代である。幼稚園といふものに對する一般の理解も亦察すべきである。此の時代、進んで幼稚園の人となることは、その先

見と、而して勇氣とに敬服せざるを得ないのである。令姉氏原銀子氏の感化による處あつたとしても、女史自身の内面に、何か幼稚園の人となるべき強い自然の因縁の先在したこと、思はざるを得ない。四十五年の保育生活も亦、一つに、その貴き若き日の決心の發展に他ならない。

府立模範幼稚園は明治十六年七月、府の經費上の都合によつて廢園せられた。殊に極めて突然の廢園であつたといふことである。若き女史等の失望、誠に想見すべきものがある。しかも、より失望したのは、その園兒の親達であつた。直に相談して十名の親達が一名廿圓づゝ據出し合計二百圓を以て、模範幼稚園の拂下げを買とり同年十月から中洲幼稚園と名づけて保育を繼續することになつた。女史は令姉氏原氏と共に引つゞき保育の任に當られたのである。私は此事實を以て、女史等の保育が、如何に當時の親達を満足させてゐたか

を思はざるを得ない。

三

明治十七年文部省の幼稚園獎勵の發令以來大阪にも、幼稚園の數が増加するに至り、各區から女史等に對しても、優待條件を以て招聘せんとするものが多くなつた。しかも、女史等は從來の情誼を重んじ、模範幼稚園の關係上、令姉氏原氏は北區幼稚園に、中洲幼稚園の關係上女史は西區幼稚園に、各奉職することにされた。それは明治十八年のことであつて明治廿六年西區幼稚園の廢園と共に新設された同區江戸堀幼稚園に奉職、爾來、引つゞき同園に勤務せられたのである。江戸堀幼稚園の名が、如何に我國の保育界に著聞し、關西保育界視察者の先づ第一に訪ふ處であつたことは更めて言ふ迄もない。

膳女史の江戸堀にあるや、單に、同園のためのみならず、全大阪市保育界のために、たえず多大

の盡力をせられ、その貢献の數々は實に擧げつくせない位である。しかし女史の場合、その貢献の最大なもの、事業の畫策よりも、實に人その人であつたのである。女史の人格そのものが、何より一番大きな意義をもつて活いてゐたのである。殊にその謙虛、全く己れを虚ふして、一點一毫の野心を混せざる心事と、之れに加ふるに、寛厚溫和、春風の如き調和性とが、いつでも、大きな存在であつたのである。

四

退職後の女史は京都市外の嵯峨の新居に閑を養ふて居られる。近信によると、まだ眼がよくならないといふことである。私達は、まだ／＼保育界のために多くのお力を借りなければならぬと思ふのでもあるが、また一方には、健康專一を祈らすにも居られない。大阪保育界には多士濟々である。直接のことは、若い方々によつて充實もされ、發

展もされるであらう。女史には、健康を恢復せられて、益々輝かしい溫顔を以て、我國保育界の心を慰めもし、勵ましもして下さる様に願ひ度い。否もつと私情をいへば、假りに何も手傳つて下さらなくても、われ／＼幼稚園關係者が、如何に女史の偉きい貢献を感謝してゐるかを思はれて、幼稚園のために、いつまでも心の同志であつて頂けばいゝ。江戸堀幼稚園にある女史の壽像も、幼稚園令發布紀念全國保育大會から、幼稚園功勞者として贈つた置時計も、女史に對する此の感謝の極く少さいあらはしに過ぎない。而して、われ等の深い感謝を以てしては、女史が、江戸堀にあつたと嵯峨にあるとに拘はらず、女史が我國の幼稚園の人であることに、いつまでも、何の變りもないのである。嵯峨野の膳さんは、其勝景に圍まれて、今、何をしてゐられるか。若し、昔幼稚園で使はれた二絃琴でも出して弾じてゐらそゝのなら、私は馬に乗つて、笛を吹きながらお訪ねして見たいものだ。